

2006年センター報告・日誌

* ギールケ文庫保存事業

昨年に引き続き、一橋大学後援会より奨学寄付金の助成を受け、ギールケ文庫の保存修復作業を行った。全資料に対する劣化調査を継続すると共に、保存修復作業が必要な資料に対しては、保革油塗布、保護ジャケット・保存容器の作製、ページ修理、保存製本等の処置を施している。こうした保存修復作業は、製本家・書籍修復家からの指導を受けながら、センター内に設置されている貴重書保存修復工房のスタッフにより行われている。

* フランクリン文庫総目録作成および CD-ROM 化事業

昨年に引き続き、125周年記念学術・保存事業振興基金の助成を受け、目録のデータシート作成および入力作業を行っている。入力作業は2007年3月終了予定。

* ギールケ文庫の遡及入力事業

2006年2月より、研究拠点形成費補助金(21世紀COEプログラム)により、関連する資料の整備と公表のために、ギールケ文庫のうち分類K(教会法)およびV(国際法)約500冊についての書誌、所蔵データの遡及入力、NACSIS-CAT総合目録データベースにオンライン登録する作業(業務委託)を行っている。2006年度分は分類S(国家法等)について2007年1月開始。

第7回西洋古典資料保存講習会

下記の内容で、7月24日(月)から7月26日(水)までの3日間開催し、全国の国公立大学図書館等から8名参加で、実習を中心に行った。

- | | | |
|---|------|----------------|
| 1. 材料と環境 | 増田勝彦 | 昭和女子大学教授 |
| 2. 劣化調査と保存計画 | 名和賢美 | 社会科学古典資料センター助手 |
| 3. 製本構造、調査票の活用、クリーニング、
保存容器、保存製本、書見台 | 岡本幸治 | 製本家・書籍修復家 |

第26回西洋社会科学古典資料講演会

下記の内容で、11月7日(火)から11月10日(金)まで4日間開催し、全国の国公立大学図書館等から34名が参加した。

古典研究

(1) 経済学の成立とその課題

竹本 洋 関西学院大学経済学部教授

(2) カント「永遠平和のために」のアクチュアリティ—ドイツ啓蒙の岐路

平子友長 一橋大学大学院社会学研究科教授

(3) ルソーとフランス革命

山崎耕一 一橋大学社会科学古典資料センター教授

書誌学

- (1) 記述書誌を“読む”面白さ—図書館員のための書誌学入門—
武者小路信和 大東文化大学文学部助教授
- (2) 「百科全書」の諸版本
小関武史 一橋大学大学院法学研究科助教授
- (3) 社会科学古典資料センターの古版本目録作成について
松尾恵子 一橋大学社会科学古典資料センター助手

保存・修復

- (1) 紙資料の保存
増田勝彦 昭和女子大学教授
- (2) 歴史的製本の保存と修復
岡本幸治 製本家・書籍修復家

社会科学古典資料センター見学（書庫・所蔵資料・貴重書保存修復工房）

日誌（2006年1月～12月）

- 1月31日 第4回社会科学古典資料センター専門委員会
議題：1 社会科学古典資料センター助手選考委員の人選について
- 2月22日 第5回社会科学古典資料センター専門委員会
議題：1 第4回社会科学古典資料センター専門委員会議事要録について
2 社会科学古典資料センター主催講習会の経費について
3 平成19年度概算要求について
4 研究拠点形成費補助金（21世紀COEプログラム）による事業について
- 3月31日 一橋大学社会科学古典資料センター年報 第26号発行
Study Series No. 55：榎本武文『15世紀イタリアの修辞学思想』発行
Study Series No. 56：柳沢のどか（翻刻・翻訳）、西沢 保（校閲）『福田徳三—ルーヨ・プレントナーノ書簡1898—1931年』発行
- 4月26日 第6回社会科学古典資料センター専門委員会
議題：1 平成17年度事業報告について
2 平成17年度決算報告について
3 平成18年度事業計画について
4 センター助手の人事について
- 7月24日～26日 第7回西洋古典資料保存講習会開催
7月～8月 蔵書クリーニング、蔵書移動および蔵書点検
11月7日～10日 第26回西洋社会科学古典資料講習会開催

利用状況（2006年1月～12月）

開館日数	234日
利用者	213人
（学内）	95人
（学外）	26人
（文献複写）	92人
利用冊数	444冊
複写冊数	121冊